

科目名		授業形態	担当教員名	
倫理学		講義	木村 和弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
保健医療福祉の現場における倫理的問題、主に生命倫理（健康と病気、医療問題）について学びます。事例を通して、現代社会における具体的な問題（脳死・臓器移植・安楽死・意思決定支援等）について考えます。自分で考え、考えを述べることを大切にします。また、他者の意見を尊重し、様々な考えがあることを認めながら、共に考え、医療関係者としてあるべき姿を考えることを目的とします。				
授業の到達目標				
1. 医療技術の進歩と、そこで起きている倫理的問題について説明できる。 2. 将来、実践現場で出会うであろう倫理的課題について、柔軟に考え、自分の考えを述べるができる。 3. 自分の「考え方の傾向」を知る。「他者の意見を尊重」する。これを大切に話し合いができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	なぜ、生命倫理を学ぶのか？		～ 究極の選択「あなたなら、どうする？」～	
2	職業倫理から生命理理を考える。		～ 「ヒポクラテスの誓い」と「生命倫理の原則」～	
3	患者に本当のことを伝えるべきか否か？		～ 「インフォームド・コンセント」「知る権利、知らないでいる権利」～	
4	超高齢社会の倫理的問題その①		～ 少子高齢多死社会における倫理的課題～	
5	超高齢社会と倫理的問題その②		～ 「身体拘束廃止」と、「高齢者虐待防止」～	
6	超高齢社会と倫理的問題その③		～ その他、高齢者の支援場面で起こりうる倫理的課題～	
7	移植医療について考える。		～ 脳死と臓器移植 ～	
8	出産と生殖補助医療について考える。		～ ①胎児の権利 ②代理出産 ③一人の子どもに5人の親 ～	
9	夢の医療技術と医療倫理について考える。		～ 「クローン技術」、「ヘルシンキ宣言」その他 ～	
10	死について考える。		～ 安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウィル、その他 ～	
11	ターミナルケア		～ ①患者と患者家族の気持ちを考える ②ACPについて ～	
12	多職種連携で大切なこと		～ 患者・家族の価値観を大切にすること多職種連携～	
13	生命倫理の課題を考える上で大切なこと		～ 生命倫理の原則 ①原則論 ②手順論 ③物語論 ～	
14	倫理の基本理論と自己覚知について		～ 行為論と義務論、QOLとSOL、医療スタッフに必要な心構え ～	
15	全体のまとめ		～ 倫理が問われる時代にどのようにあるべきか～	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	40%	選択式問題と、論述問題を出题します。		
レポート・課題				
小テスト				
平常点	30%	毎回、個人ワーク、グループ討議を行います。取り組みの姿勢、学びについて評価します。		
その他	30%	毎回、講義の最後に「今日の学び」というミニレポートを書きます。その内容による評価です。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
生命倫理学入門 第5版		今井道夫	産業図書	
自由記載	テキストは補助的に使用。毎回テーマに合わせて資料を配布します。			
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				